

## 開発事業の計画にあたって②

### － 築造した道路を市へ帰属する場合 －

令和 3 年 4 月作成  
担当 狭山市 道路維持課

#### 1 留意事項

- 築造した道路を市へ帰属したい場合は、道路維持課へ事前相談をしてください。
- 市への帰属が可能な道路（以下「帰属道路」という。）は、公道から公道へ接続しているものとします。
- 帰属道路は開発事業の規模、形状、予定建築物の用途及び周辺の状況を勘案し、適正な配置計画としてください。
- 帰属道路の配置は、【2-1 帰属道路標準配置図】を標準とします。
- 帰属道路の構造は、【2-2 帰属道路標準断面図】を標準とします。
- 帰属道路の排水施設等については、【2-3 道路排水施設等の構造基準】を標準とします。
- 帰属道路の占用物については、道路法第 3 2 条の許可基準に適合しているか、事前に別途確認をしてください。

#### 2 構造図 … 2 ページ以降をご確認ください。

##### 2 - 1 帰属道路標準配置図

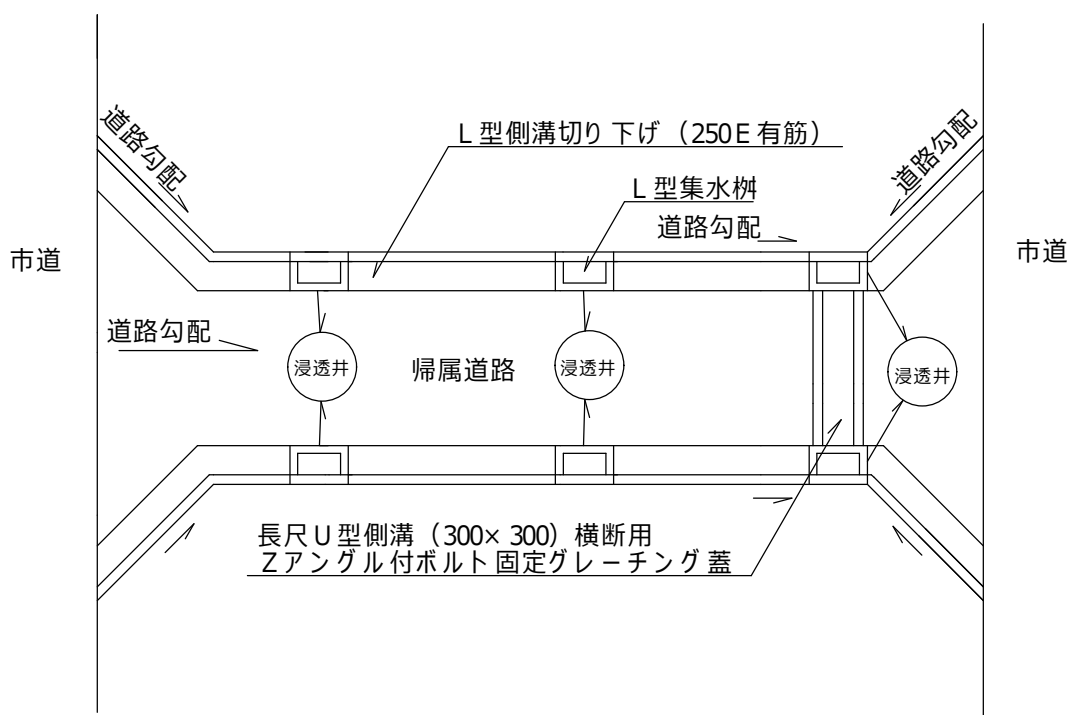
##### 2 - 2 帰属道路標準断面図

##### 2 - 3 道路排水施設等の構造基準

- 2 - 3 - 1 L 型側溝敷設工標準構造図
- 2 - 3 - 2 長尺 U 型側溝工（300×300）横断用
- 2 - 3 - 3 L 型集水柵工標準構造図
- 2 - 3 - 4 取付け管標準図
- 2 - 3 - 5 取付け管標準断面図
- 2 - 3 - 6 浸透井標準構造図

## 2 - 1 帰属道路標準配置図

図1 帰属道路標準配置図



- 1 幅員、隅切り長については、開発審査課で審査基準を確認すること。
- 2 帰属道路は袋路状（P字状道路を含む）でなく、公道から公道へ接続させるものとする。
- 3 帰属道路と接続する市道との交差角は90°を標準とする。
- 4 帰属道路が同一の公道へ通り抜ける計画（コの字状道路など）となる場合の配置は、図2のとおりとする。
- 5 帰属道路と接続する市道の施工例は図3・4のとおりとする。その他は別途協議すること。
- 6 電柱等（支線・支柱も含む）は道路内へ設置しないこと。
- 7 帰属道路の雨水を処理するため、市道との接続部分（隅切りよりも内側）に長尺U型側溝（Zアングル付ボルト固定グレーチング蓋）を設置すること。
- 8 集水枡及び浸透井は、路面の滞水等が発生しないように適宜設置すること。なお、集水枡の設置箇所は、極力、宅地造成の出入口を避けること。
- 9 浸透井の深さについては、地下水水位、レキ層等を考慮し、有効水深を3メートル以上とすること。蓋については狭山市型とすること。

図 2 帰属道路が同一の公道へ通り抜ける場合  
(コの字状道路など)

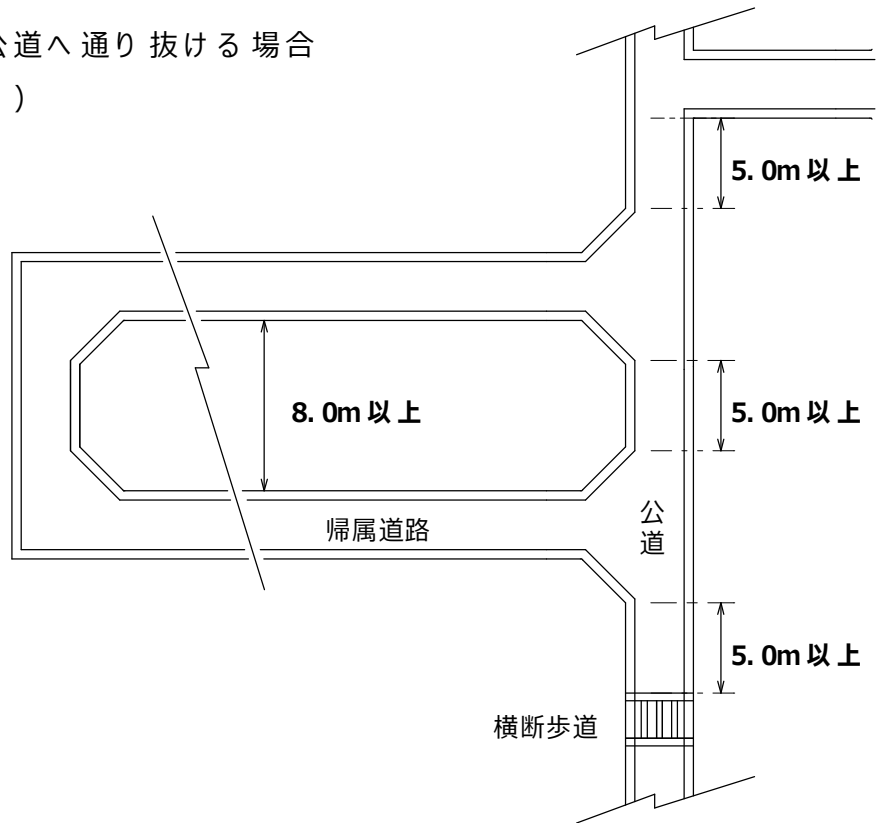


図 3 帰属道路が L 型側溝のある市道と接続する場合

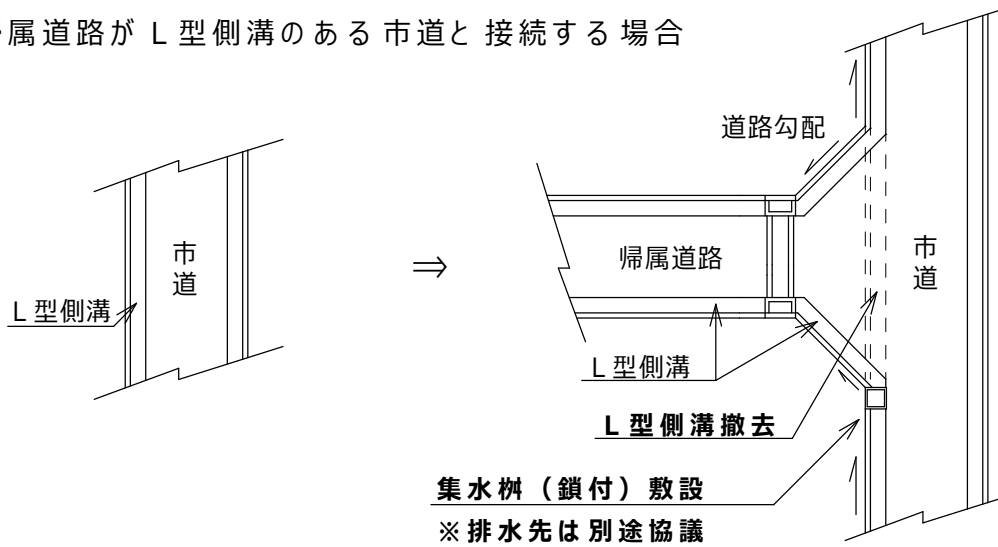
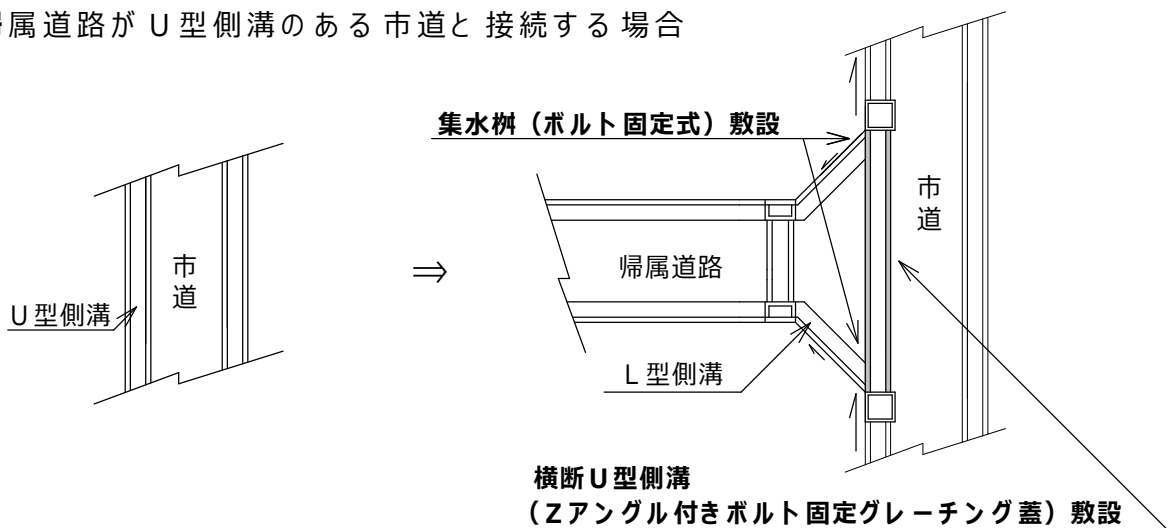
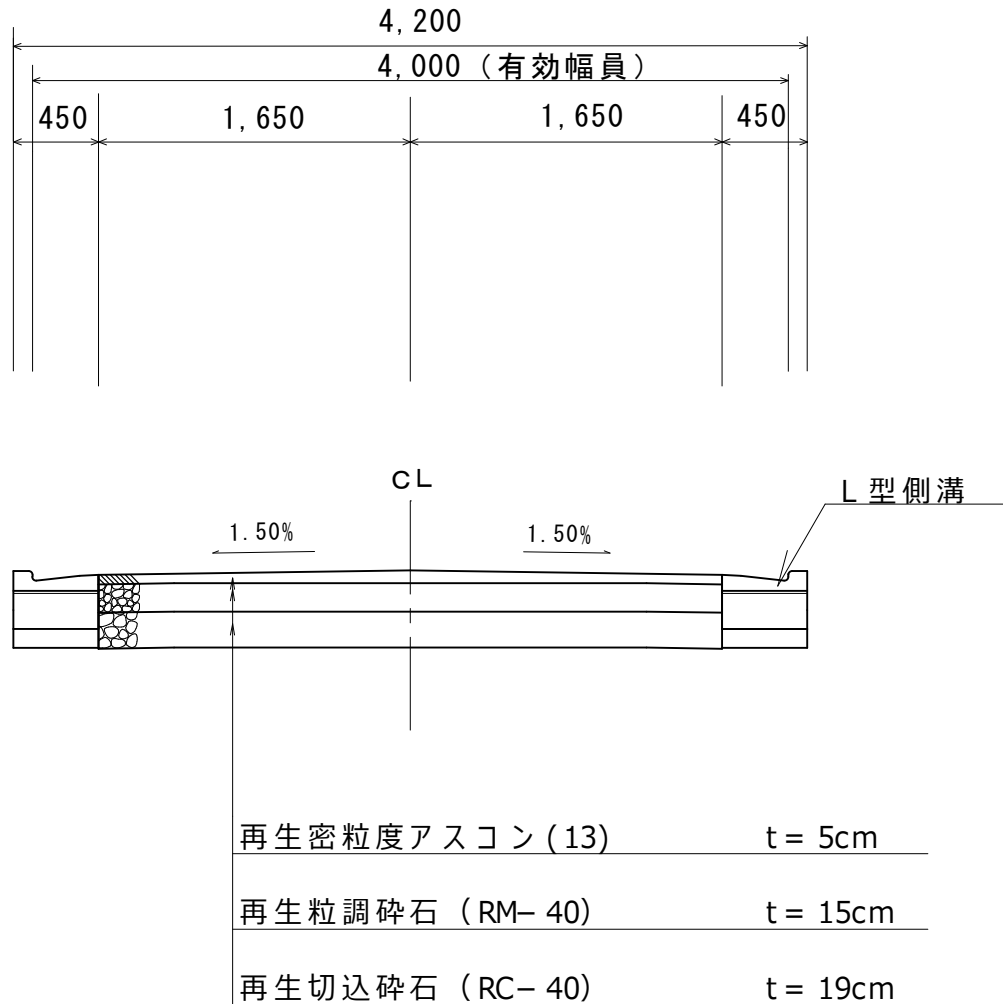


図 4 帰属道路が U 型側溝のある市道と接続する場合



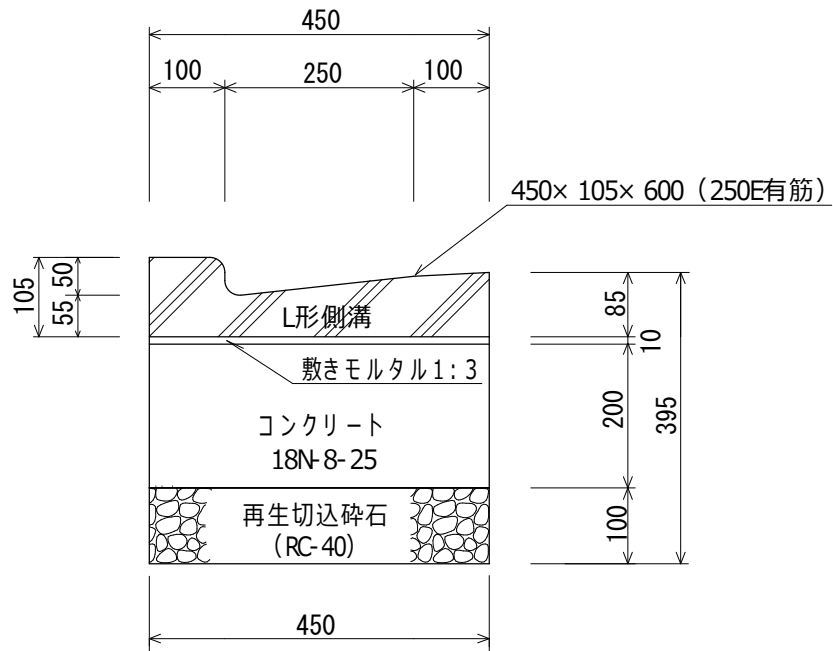
## 2 - 2 帰属道路標準断面図



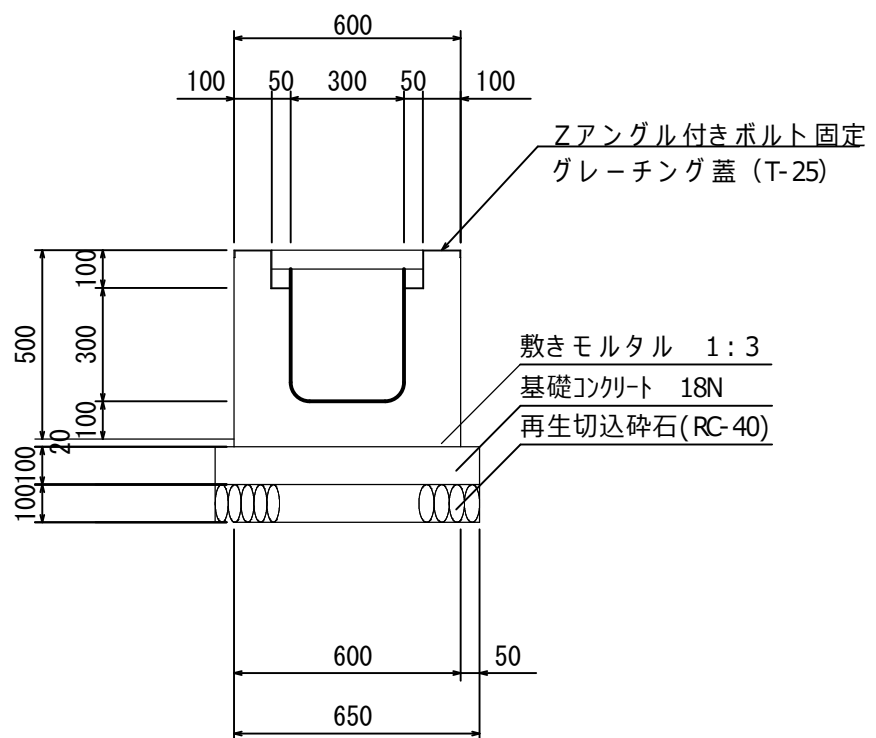
- 1 幅員、隅切り長については、開発審査課で審査基準を確認すること。
- 2 L型側溝を敷設する道路の幅員は、有効幅員確保のため開発審査基準+0.2メートルとすること。
- 3 道路の縦断勾配は、8%以下とすること。

## 2 - 3 道路排水施設等の構造基準

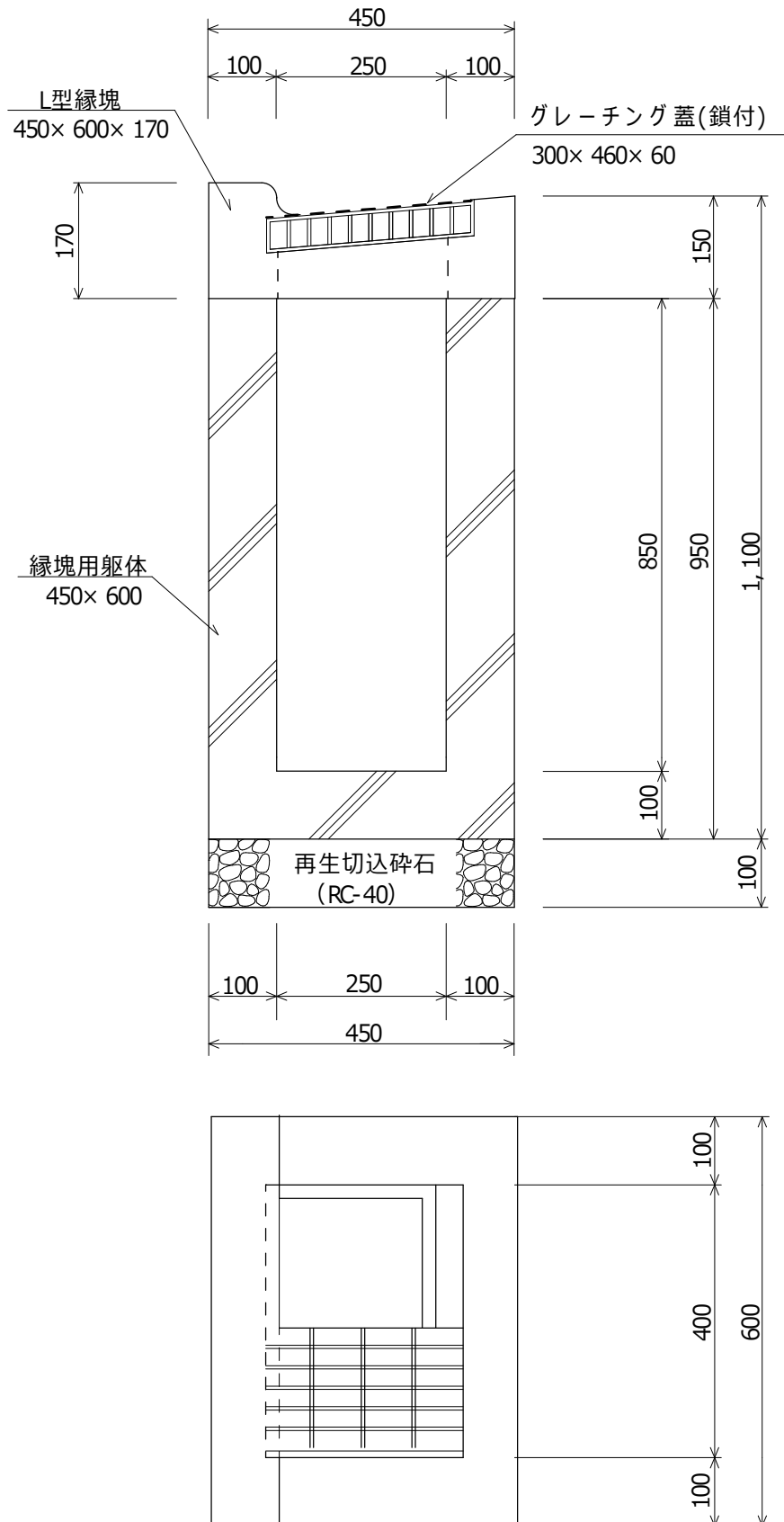
### 2 - 3 - 1 . L型側溝敷設工標準構造図



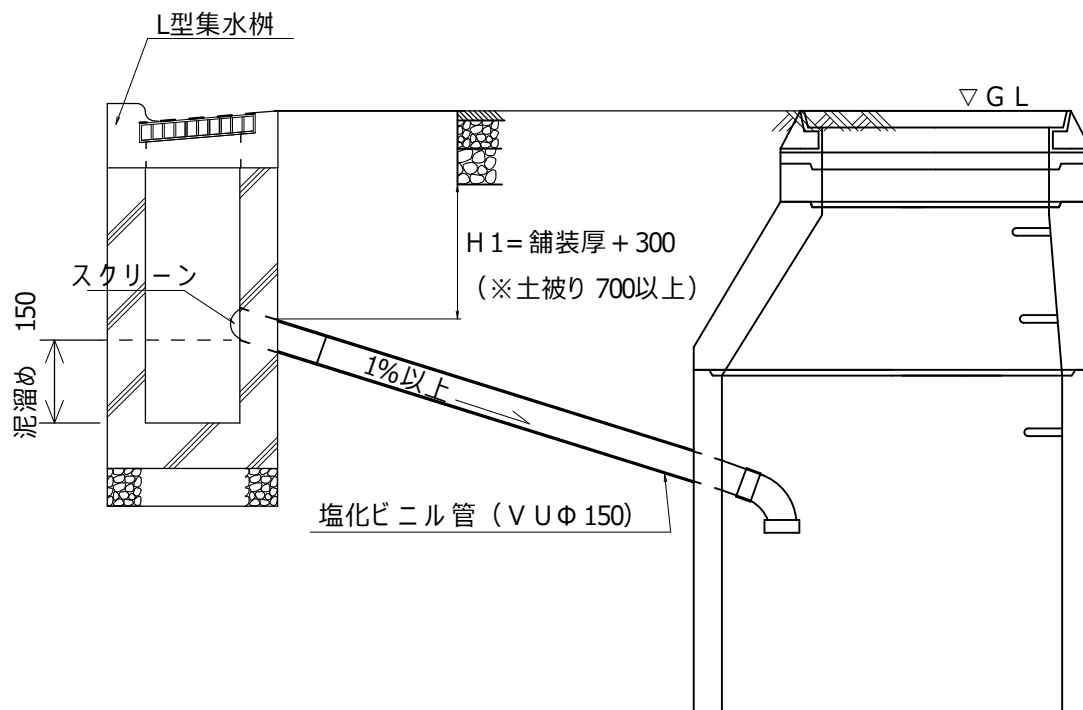
### 2 - 3 - 2 . 長尺U型側溝工 (300×300) 横断用



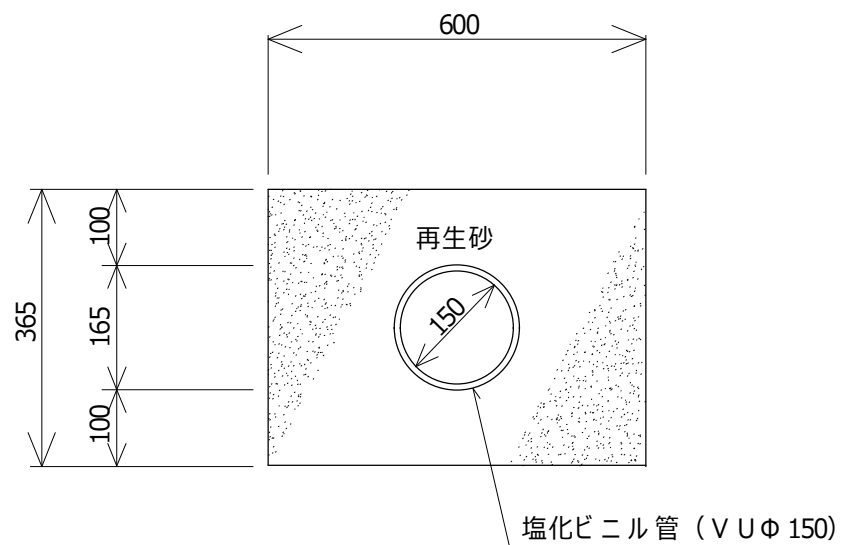
2-3-3 L型集水柵工標準構造図



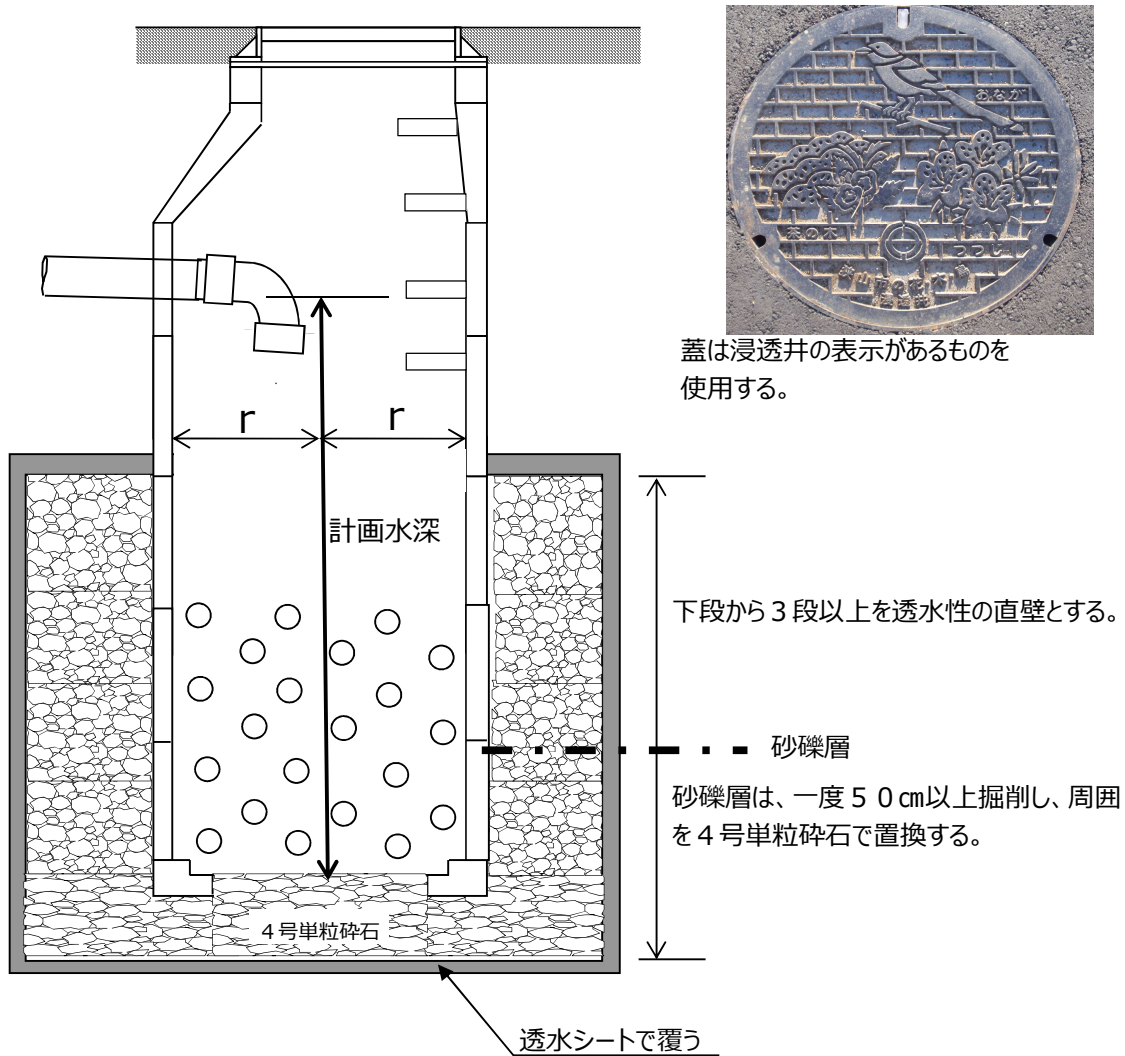
2-3-4 取付け管標準図



2-3-5 取付け管標準断面図



2-3-6 浸透井標準構造図



- ・蓋については、狭山市マーク入り（JSWAS G-4）とし、転落防止器具を設置すること。
- ・T-14の使用区分は、幅員5.5m未満で大型車の通行が少ない車道及び歩道とする。
- ・T-25の使用区分は、大型車の通行に支障がない範囲として、幅員5.5m以上の車道とする。



砂礫層を利用した浸透井の場合

a) 区域内における計画雨水量を次の式により算出します。

$$Q = 1 / 360 \times C \times I \times A \times 3,600$$

Q : 最大計画雨水流出量(m<sup>3</sup>/時)

C : 流出係数

I : 降雨強度(mm/時) 50mm/時を用いる

A : 集水面積(ha)

① 流出係数

流出係数については、次の表のとおりです。

種	類	流出係数
路面	舗 装	0.95
	砂 利 道	0.70
路肩、のり面など	細 粒 土	0.65
	粗 粒 土	0.30
	硬 岩	0.85
	軟 岩	0.75
公園、芝生		0.25
屋根		0.95
間地		0.40
こう配のゆるい山地		0.30
こう配の急な山地		0.50
田、水面		0.80
畑		0.30

b) a) の算式により求めた計画雨水量が処理できる浸透井は次の式により一基あたりの浸透量を求め、必要な浸透井の基数を決定します。

$$Q \leq 4 \times c \times r \times h$$

Q : 最大計画雨水流出量(m<sup>3</sup>/時) … a) で求めた数値

c : 浸透強度(m/時) 1. 1m/時を用いる。

r : 浸透井の半径(m)

h : 計画水深(m) ※計画水深は3m以上とする。